長野市 教育センター便り

第226号　令和８年10月５日

長野市教育センター
長野市大字鶴賀550番地2
TEL 026-226-7486
FAX 026-264-7570
責任者　佐藤　文博



俳句・短歌

通明小学校（六学年）

大暑きて　外から聞こえる　ミンミンミン
（寺澤　由珠）

夏の花　陸の花と　空の花
（小出　なな実）

たのしみは　夕食かこみ　話すとき
いろんな話　聞けるとき
（齋藤　咲）

たのしみは　しずかな部屋で　本開き
本の世界へ　飛び込む瞬間
（瀧澤　愛莉）

不登校の低年齢化

教育次長　唐木　英俊



犯罪・非行の低年齢化、スマホ・SNS利用の低年齢化等、「○○の低年齢化」ということをしばしば耳にする。最近、学校教育関係では、「不登校の低年齢化」ということが言われている。

実態はどうなのか。文部科学省が毎年実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、全国では、令和４年度から令和６年度までの３年間で、小学校１年生の不登校児童は6,668人から8,738人へ、小学校２年生では10,047人から1,4125人へと増加傾向にあり、その傾向は本市も同様である。

令和６年度に開所した校外教育支援センターSaSaLANDでは、小学校１年生は、令和６年度末５名、令和７年度末は６名が登録。小学校２年生は、令和６年度末11名、令和７年度末は16名と、どちらの学年も増加傾向にある。また、小学校１年生が、４、５月という年度当初からSaSaLANDへ登録・利用する例もあり、「学校以外の学びの場」を必要とする低学年児童が増えつつあることを感じる。

なぜ、小学校低学年で不登校が増加しているのか。幼稚園・保育園等でも小学校低学年と類似した現象が起きているのかもしれないし、幼稚園・保育園等では通園できているが小学校でのギャップを感じる園児が増加しているのかもしれない。まずは、幼保小の相互参観、情報共有、共通理解が重要である。

昨年、長野地域多様な学びフォーラムで講演していただいた信州大学医学部・子どものこころの発達医学教室　特任助教　新美妙美　先生は、講演の中で「子どもは、そもそも一人一人違うのに、学校では一律に同じ場所、同じ行動、同じ学習方法を求める。その中で、個に応じてというのは限界がある。そもそも学校に合っていないのに選択肢が一つしかないから、集団が苦手な特性の子どもは学校が無理なのは当然のこと。学校が合わない理由はたくさんある。時間割が決められていること、良かれと思っての注意・指導が多いこと、感覚過敏、学習方法が合わない、マイペースが許されない、ルールが多く納得いかないことをやらされる等。不登校の子どもだけでなく、ほとんどの子どもが過剰適応しているのではないか」という旨のお話をされた。

学校というシステムが昔からあまり変わっていないとすれば、低学年をはじめ、不登校が増加してきているのは社会が変化してきていると考えざるを得ない。情報端末や生成AIが急速に拡大・進展する中、「学校しかない」から「学校でなくてもよい」という認識も確実に広がってきている。

校外教育支援センターやフリースクール等、多様な学校以外の学びの場が充実する一方で、学校は変わらなくてよいのか。市教委では、校内教育支援センターを中心とする「学校内の学びの場の多様化」とともに、「多様な子どもを包摂できる安全・安心な学校づくり」を支援していきたいと考えている。

初任者研修「夏期研修」

７月30日、31日、８月３・４・６日のいずれか１日、計３日間の日程で、長野市小・中学校初任者研修「夏期研修」を実施しました。

３日間の研修内容

【１日目：仲間づくり研修】
- **野外教育活動（アイスブレイク、グループワーク）**
- **野外炊さん　・教育次長講話**

【２日目：教科指導研修③】
- **教科別授業づくり研修**
- **北澤 嘉孝教育長職務代理者の講話**
- **ICT授業づくり研修　・情報教育研修**

【３日目：地域課題研修（教育支援センターSaSaLANDでの研修）】
- **施設長講話　・個に寄り添った活動**



【受講者の感想】
- 仲間づくりとしてのアイスブレイク、それに隠された大切なこと、教科の専門性を深め、悩みを共有できること、ＩＣＴや情報教育という効率を上げさらに学習を深められるもの、すごく実践してみたいなと感じる３日間でした。
- 教師自身が学び続け、人間性と専門性の両方を高めていく必要性を改めて感じている。２学期は目の前の業務をこなすだけでなく、一人一人の生徒の反応や変化をしっかり見るとともに、この授業で何を学ばせたいのかを明確にした授業づくりに取り組みたい。
- 夏期研修を通して、自分の力にする事はもちろん、野外活動や授業づくり研修、地域課題研修等、「子どもだったらどうか」という視点で考える事が多かったです。教科書、単元を進めないと焦ってしまう事もありましたが、２学期は子どもたちにもより目を向けながら、子どもの視点に立った教材研究、活動の準備を心がけていきたいと思います。

初任者が、様々な体験的活動を通して、教師と子どもの両方の視点から考え、共に学び合う３日間となりました。研修の運営も班ごとに担当し、会の進行や受付等を協力して行いました。自らの研修をよりよいものにしていこうとする主体的な姿が、さまざまな場面で見られました。　（小林　由起子）

Let's enjoy music歌唱
－歌う楽しさを感じる歌唱指導－

７月13日（月）南部小学校を会場にして、日本合唱指揮者協会副理事長で国立音楽大学講師　藤原規生先生のご指導と、ピアニストの神林杏子先生の伴奏により、南部小学校６年生への指導を通してコツを学び、また受講者自身が実際に歌唱指導を受けながら歌う楽しさを体感しました。



【研修の内容】

①　6年生児童への歌唱指導を参観（曲目:ことばを追い越して）

②　教材曲を実際に歌い、歌心を引き出す具体的な指導を自ら体験（曲目:いつかこの海をこえて/愛をあげよう/うたうたう）



【受講者の感想】
- ６年生の皆さんが素晴らしかった。藤原先生のご指導をしっかりと把握し実行し、どんどん伸びていく様子に感心した。
- 藤原先生のご指導で、子どもたちも私たちも生き生き歌うことができた。歌う気持ちが大きく膨らみ、そこに的確な音楽的指導が入るので、歌い手が楽しく上手になっていくと思った。
- 子どもたちの表情がどんどん変わり、もっと歌いたい！楽しい！という気持ちが表れていた。私も、しっかりと楽曲を読み込み、子どもたちが思わず歌いたくなるような仕掛けや声がけを考えていきたいと思う。
- とても気持ちよく久しぶりに声を出すことができ、リフレッシュにもなった。音楽会に向けて子どもたちと音楽を作っていくこの時期に勉強できて、とてもよかった。

受講者が“ワクワク”“楽しい”を体感しながら歌唱指導法を学び、明日からの意欲が沸いたという感想も多く、とても有意義な講座になりました。

（池上　昭子）

令和８年度　教育研究委員会の授業公開一覧

長野市教育センター教育研究委員会　　共催：長野上水内教育会

共通テーマ　「非認知能力を育む」（３年目）

委員会	期日 ◇授業公開 ○研 究 会	学校名 授業者	学年・組 単元名等	授　業　内　容
国語科研究委員会	**委員会テーマ　「『できた』『わかった』『やってみたい』につながる、粘り強い探究過程」**			
	10月８日(木) ◇13:50～14:35 ○14:45～15:30	大豆島小学校 桑田　一磨	６年１組 おすすめパンフレットを つくろう	どのようなものを推薦したいかを決めた子どもたちが、相手意識をもって構成や文章を工夫し、効果的な図表やグラフを引用しながら魅力的なパンフレットを作成する。
	11月６日(金) ◇９:30～10:15 ○10:25～11:10	篠ノ井西中学校 宮澤　杏佳	２年４組 登場人物の言動の意味を 考えよう	「ヒューマノイド」を、過去と現在、伏線と結末の関係に着目して読み解き、登場人物の言動の意味について考える。
社会科研究委員会	**委員会テーマ　「社会とのつながりを感じ、見通しをもちながら自ら関わりにいく児童生徒の育成」**			
	10月28日(水) ◇９:25～10:10 ○10:10～11:10	下氷鉋小学校 稲生　元希	５年温組 自動車をつくる工業	タブレット等のICT機器を効果的に活用し、子どもが計画し、取り組めるよう「自由進度的」に学習を進める。
	11月13日(金) ◇13:35～14:25	裾花中学校 篠原　敏紀	３年３組　公民的分野 平和主義	公民的分野の平和主義の単元において、歴史的分野の学習を踏まえ、「私たちは戦争をどう記憶していくべきか」を主体的に考える。
	※市教育センターとしては、授業公開のみとします。ご意見ご感想は、当日配布の感想記入用紙にご記入ください。 ※「信州社会科教育研究会 第72回 研究大会(北信ブロック大会)」と同時開催です。信州社研の方は、信州社研からの案内をご確認ください。			
算数・数学科研究委員会	**委員会テーマ　「子どもたちの主体性を育む算数・数学の支援―他者と協働する学習を通して―」**			
	11月11日(水) ◇９:25～10:10 ○10:35～11:20	綿内小学校 丸山　菜摘	５年和組 面積	個人追究の時間とグループ活動の充実を実現するための授業づくり 単元内自由進度学習の推進とICTの活用
	10月29日(木) ◇10:55～11:45 ○11:55～12:45	東北中学校 山口　紘佑	１年４組 関数	生徒が主体的・対話的に追究し、深い学びを実現するための授業づくり
理科研究委員会	**委員会テーマ　「子どもが主体的に問題解決していく理科学習」**			
	11月25日(水) ◇13:35～14:20 ○14:50～15:40	徳間小学校 小野　菜緒	５年３組 もののとけ方	ミョウバンをより多く溶かす方法について、自らの予想をもとに実験し、主体的に問題解決する授業
	12月８日(火) ◇10:50～11:40 ○11:50～12:40	川中島中学校 倉島　拓海	２年５組 天気とその変化	生徒が対話しながら根拠をもって明日の天気を予想する授業
外国語活動研究委員会	**委員会テーマ　「子どもが主体的に学ぶための授業の工夫―一人ひとりの願いや課題の見取りと効果的な中間指導―」**			
	10月21日(水) ◇13:50～14:35 ○14:50～15:30	小川小学校 中浦　浩汰	６年 Unit６　I want to go to Itary.	・ICTを用いて教師の「待つ」支援 ・導入でSmall Talk ・既習の表現を用いたペア活動
	９月７日(月) ◇14:10～15:00 ○15:10～15:30 太田洋先生の講義 15:30～16:40	北部中学校 上野　大	２年２組 Unit４　Tour in Singapore	地域のお店の自分のおすすめの一皿について、外国の方にも伝わるようなメニューボードを作成しブラッシュアップしていく活動
	※この授業公開は研修講座No.4162「伝えたい！知りたい！から始まる英語授業」とあわせて行われます。参観を希望される方は研修講座（プラント）にも申し込みください。			
体育・保健体育科研究委員会	**委員会テーマ　「すべての子どもが夢中になり、健康で豊かなスポーツライフの実現をめざす体育学習の創造 ―見方・考え方を働かせ、もっと『わかる』『できる』『かかわる』体育学習―」**			
	11月18日（水） ◇公開授業 9:35～10:20	城山小学校 渡邉　啓介	５年１組 B　器械運動 ア　マット運動	・運動課題の解決に向けて、子どもたちが主体的に試行錯誤する授業 ・回転系接転技群（後転グループ）の追究をする場面で、子どもたちが自己の課題を見付け、解決に向けて練習の場や段階を選び、動きを高めていく授業。
	◇公開授業 11:35～12:25	篠ノ井西中学校 今井　智文	３年１・３組　選択単元 E　球技　イ　ネット型 「ダブルセット・バレーボール」	易しい教材を用いて、生徒の思考力や運動技能などの源となる「わかる」学習を大切にした単元展開を構想する。単元前半に、「戦術的知識」の習得場面を意図的に位置付け、生徒の主体的な学びの姿につながる授業を行う。
	○研究会 13:30～14:30	□会場：篠ノ井西中学校（小学校、中学校別）		**※体育・保健体育科への参加希望者は、二次元コードからの申し込みの際、「その他」の欄に、例：城山小の授業のみ、篠ノ井西中の授業と研究会、全て参加　等の記載もお願いします。**
	※伝達講習会 （校長会主催） 14:45～16:15	□会場 小学校対象：篠ノ井西小学校　体育館 中学校対象：篠ノ井西中学校　体育館		

☆参加申込は、右の二次元コードからお願いします。
☆二次締切は９月３日ですが、授業前日まで申込可能です。
☆授業参観のみの申込も可能です。
☆参加者には、約２週間前に「開催通知」を配信します。
☆お問い合わせは、TEL 223-0070　長野市教育センター研修研究担当まで。

（勝野　学）

教育相談室から　～ 困り感のある子と学級との関係 ～

この時期は来入児の相談が続きます。２日続けて幼稚園に参観に行きました。対象のお子さんは２人ともに自閉スペクトラム症の診断を受けているお子さんです。いずれも朝の会の場面でした。

Ａ幼稚園（園児20人　担任と副担任の２人）Ａさんは朝の会がはじまっても本棚の横の席で、いくつか折込み仕掛けのある面白そうな本をずっと見続けています。副担任の先生が何度も本をしまって参加するようにはたらきかけますが、言うことを聞きません。何回か同じかかわりが続くと、その子は本を投げ捨ててロッカーに潜り込み、最後まで朝の会に参加しませんでした。

Ｂ幼稚園（園児25人　担任１人）Ｂさんは朝の会が始っても歌や手遊びには参加せず、机の上に突っ伏したり床に座ったりしていました。呼名では「はい」とはっきり返事をしました。最後にその子の興味のある平仮名タイムになりました。（この幼稚園では年長児は朝の会で平仮名の学習をしていました） 当日は「さ」について。ワークブックが配られると本児はしっかり着席しました。なぞり３マス、空欄記入５マス、応用として〈　〉内記入　（さ）る　や（さ）い　とすべて正しく記入しました。最後に担任の先生から全体に、「さ」が最初につくことばが問われました。Ｂさんは挙手して指名されましたが声が小さくて発言がはっきり聞こえません。先生は言いなおしを求めるのでなく、本児の席に行って口元に耳を近づけて内緒話のように聞きました。そのあと先生は、「『さかなつり』って言ってたよ」と全体に報告しました。すると友だちの中から自然に拍手が湧きました。

２つの場面は、困り感のある子と学級の関係性を、先生や子どもたちの姿がはっきりと示しています。**Ｂ幼稚園**のクラスがそのまま小学校１年生のクラスになったとしたら、そのお子さんは特別支援学級に入級する必要があるでしょうか。一方で、**Ａ幼稚園**のお子さんはどうなるのでしょうか。いわゆる学びの場の選択・決定がこうした関係性に左右されていることが多いのではないでしょうか。

今年の７月に刊行された「新版 インクルーシブ教育ってどんな教育？」（学事出版）中、楠見友輔先生［信州大学教育学部准教授］執筆の節「学習論から考えるインクルーシブ教育」から引用させていただきます。

「『序列化された差異（序列化された差異とは、違いを「できる／できない」「標準に近い／遠い」といった上下関係として理解する見方）』の中で下位に位置づけられた子どもが外に出されると、学級の多様性は減少します。すると同時に、「標準」の位置が上がります。そのようにしてできた新しい集団も、ふたたび「序列化された差異」を基に評価されるため、また別の子どもが「下位」に位置づけられて「外へ」出されていきます。このメカニズムを繰り返すと、集団の標準値が上がっていくため、集団の「学力」が高まっているように見えます。しかし、これは個々の子どもの学力が上がった結果ではありません。排除は見かけの学力を向上させますが、それは教育の質の向上による結果ではないのです。」

子どもの特性を理解して寄り添うことと同時に、学級の在り方、つまりその子と学級の関係性について考えていかないと、特別支援学級への入級者はずっと増え続けるのではないでしょうか。時間はかかってもこのような視点から、特に困り感のあるお子さんの在籍する学級の在り方を真剣に考えていくことが、私たちの目指すインクルーシブ教育に近づくことになると思うのです。現時点での申込件数を昨年度比でみますと10件以上の増加です。今年度も昨年度をさらに上回ることが予測されます。　　（大井　透）

運営委員会報告

６月29日(月)に令和８年度第１回運営委員会を開催しました。各担当から事業に関する説明を行い、委員の皆様から質問や意見をいただきました。

令和８年度運営委員会委員（敬称略）

越智康詞	信州大学教育学部教授
綿貫好子	社会福祉法人廣望会ｱﾄﾘｴCoCo所長
中島功雄	株式会社中嶋製作所代表取締役社長
嶋田勝彦	櫻ケ岡中学校長
青木忠文	川中島小学校長
松本訓幸	篠ノ井西中学校教頭
横谷智子	三本柳小学校教頭

委員の発言（★）と教育センターの返答（◎）抜粋

１　研修・研究について

★長野県と中核市（長野市・松本市）の研修に関する連携協定締結後の状況は。

◎近隣市町村から受講希望が40名超、長野市から県への受講希望が増加した。県のどのような講座を受講したか分析し、魅力ある講座を構築していきたい。